

令和6年5月～6月に関係機関14団体に郵送又はヒアリング調査を実施しました。

調査で見えてきた課題等

### (1) 関係機関への郵送調査（瑞浪市社会福祉課）

#### 1. あひる学童クラブ

（令和6年6月：郵送調査）

- ・活動を担う人材・マンパワー
- ・ボランティア団体・NPO等の団体・組織の育成・支援を充実させる
- ・ボランティア団体の情報がほしい
- ・消防・防災・災害支援との連携
- ・理解されにくい仕事であるようにも感じており、学童の保育料が高いという意見を聞く
- ・支援を必要とする児童も増えており、放課後デイサービスの周知に向け、放課後デイサービスの先生との情報交流、連携が必要

#### 2. かるがも学童クラブ

（令和6年6月：郵送調査）

- ・活動を担う人材・マンパワー
- ・構成員の高齢化
- ・市の施策・事業に関する情報を積極的に公開する
- ・住民・地域の意見を聞く機会を充実させる
- ・障がい者支援との連携
- ・他団体や他機関とは日ごろの交流がない（互いの顔が見えない）、連携先がわからないので連携しにくい
- ・保護者が共働きの世帯が多くなってきた昨今、学童保育がとても重要な施設となってきた

#### 3. すずめっこ学童クラブ

（令和6年6月：郵送調査）

- ・活動の財源確保
- ・地域活動団体同士の交流促進や研修を行う
- ・住民・地域の意見を聞く機会を充実させる
- ・地域の自主性に任せる事業を増やす（地域への事業委託、自主事業の拡大など）
- ・高齢者支援との連携
- ・他団体や他機関とは日ごろの交流がない（互いの顔が見えない）、連携先がわからない、個人情報共有が難しい、縦割り行政の壁があるので連携しにくい

#### 4. ひまわりハウス

（令和6年6月：郵送調査）

- ・活動を担う人材・マンパワー
- ・居場所づくり・活動拠点・施設の設備

- ・地域活動団体同士の交流促進や研修を行う
- ・高齢者、障がい者、子育て支援やまちづくりとの連携
- ・他団体や他機関とは縦割り行政の壁があるので連携しにくい
- ・現在の活動が忙しくアウトリーチまで行えていない。

## 5. ペンぎん学童クラブ

(令和6年6月：郵送調査)

- ・活動を担う人材・マンパワー
- ・構成員の高齢化
- ・地域活動の拠点を充実させる（公民館・集会所等の機能充実など）
- ・市の施策・事業に関する情報を積極的に公開する
- ・子育て支援、消防・防災・災害支援との連携
- ・他団体や他機関とは日ごろの交流がない（互いの顔が見えない）、取組に対する価値観や温度差等が異なる、個人情報共有が難しい、縦割り行政の壁があるので連携しにくい
- ・子ども発達支援センター等との連携
- ・育成支援が必要な児童が、毎年入所している状況で、対象児童への支援についての情報共有や支援方法についての助言が頂ける場や機会がほしい
- ・対象児童が発達支援センターを利用しているケースもあるため、専門機関との連携や情報共有ができるとありがたい

## 6. 瑞浪市子ども会連合会

(令和6年6月：郵送調査)

- ・活動を担う人材・マンパワー
- ・情報・他団体との連携・ネットワーク
- ・リーダーの育成
- ・地域活動の拠点を充実させる（公民館・集会所等の機能充実など）
- ・地域活動団体同士の交流促進や研修を行う
- ・ボランティア団体・NPO等の団体・組織の育成・支援を充実させる
- ・子育て支援、青年育成・支援、まちづくりとの連携
- ・他団体や他機関とは日ごろの交流がない（互いの顔が見えない）、縦割り行政の壁があるので連携しにくい

## 7. 瑞浪市手をつなぐ育成会

(令和6年6月：郵送調査)

- ・活動の財源確保
- ・活動を担う人材・マンパワー
- ・構成員の高齢化
- ・居場所づくり・活動拠点・施設の設備
- ・リーダーの育成
- ・市の施策・事業に関する情報を積極的に公開する
- ・地域の自主性に任せる事業を増やす（地域への事業委託、自主事業の拡大など）

- ・住民自身が主体的に行う活動を活性化する（自治会、ボランティアなど）
- ・ボランティア団体・NPO等の団体・組織の育成・支援を充実させる
- ・今後は高齢者、障がい者、子育て支援、健康づくり・医療との連携が必要
- ・他団体や他機関とは日ごろの交流がない（互いの顔が見えない）、取組に対する価値観や温度差等が異なる、連携先がわからない（情報不足）、縦割り行政の壁があるので連携しにくい

- ・ひきこもり
- ・ヤングケアラー
- ・権利擁護支援
- ・アウトリーチを実施しているが、家族の理解が得られない場合が多い
- ・アンケートを取るのには反対しないが、分析結果報告がないのが残念

#### 8. 瑞浪市身体障害者福祉協会 （令和6年6月：郵送調査）

- ・活動の財源確保
- ・活動を担う人材・マンパワー
- ・構成員の高齢化
- ・住民・地域の意見を聞く機会を充実させる
- ・今後は障がい者支援との連携が必要
- ・他団体や他機関とは日ごろの交流がない（互いの顔が見えない）、取組に対する価値観や温度差等が異なる、個人情報共有が難しい、縦割り行政の壁があるので連携しにくい
- ・アウトリーチの必要性はあると考えているが、実施していない
- ・会員数の減少に歯止めがかからない
- ・会員の高齢化
- ・新規会員を募っても集まらない

#### 9. 瑞浪市長寿クラブ連合会 （令和6年6月：郵送調査）

- ・活動の財源確保
- ・活動を担う人材・マンパワー
- ・構成員の高齢化
- ・居場所づくり・活動拠点・施設の設備
- ・地域活動団体同士の交流促進や研修を行う
- ・住民・地域の意見を聞く機会を充実させる
- ・住民自身が主体的に行う活動を活性化する（自治会、ボランティアなど）
- ・他団体や他機関とは取組に対する価値観や温度差等が異なり連携しにくい
- ・活動の充実には財源確保が必要だが、確保が難しく苦慮している。

#### 10. 瑞浪北部地域包括支援センター （令和6年6月：郵送調査）

- ・活動を担う人材・マンパワー

- ・地域活動の拠点を充実させる（公民館・集会所等の機能充実など）
- ・住民・地域の意見を聞く機会を充実させる
- ・地域の自主性に任せる事業を増やす（地域への事業委託、自主事業の拡大など）
- ・今後は子育て支援、健康づくり・医療との連携が必要
- ・他団体や他機関等とは取組に対する価値観や温度差等が異なり連携しにくい
- ・急な会議・話し合いが必要となったとき、市役所の会議室が利用できるとよい
- ・生活困窮者に係る市社会福祉課、高齢福祉課、東濃成年後見センター、市社会福祉協議会以外の行政各課との連携
  - ・ひきこもりに係る連携
  - ・DV・暴力等に係る警察との連携
  - ・アウトリーチを実施している
  - ・支援を求めている当事者への最初のきっかけ作り、入り方が課題
  - ・行政と一緒に考えて活動していきたい
  - ・行政と各種団体は立場が違うので考え方が違うのは当たり前で、そうあるべきだが、相互の意見を交流させる機会をもっと増やせば、様々な事柄がより良くなっていく

## （２）関係機関へのヒアリング調査（瑞浪市社会福祉協議会）

### 1. 瑞浪市民生委員・児童委員協議会

（令和6年5月2日実施）

現在の活動で課題となっていること

- ・活動を担う人材・マンパワー
- ・構成員の高齢化
- ・少子高齢化の中でどう維持していくか。
- ・活動内容の実態をきちんと伝えるべきか（大変なことなど）
- ・こんなはずではなかったと思われることが多いため。
- ・引き受ける魅力（メリット）が何かないと難しい。  
メリットは仲間が増えること。
- ・活動内容が人（地区）による（母体となる法人の理解不足）

今後連携が必要だと思われる活動分野

- ・まちづくり、福祉委員

他団体・機関等との連携を進めるうえでの課題や困難なこと

- ・日ごろの交流がない（互いの顔が見えない）、個人情報共有（取り扱い）が難しい、縦割り行政の壁があるので連携しにくい
- ・連携ができていない地域とできていない地域がある
- ・福祉委員とは活動内容を棲み分けしている（各地域で違うが）
- ・活動を自治会単位で行う（現在はバラバラのため）
- ・重層的な支援は大事だが、誰がまとめ役をやるのか、負担が多くなる
- ・民生委員の仕事は行政とのつなぎ役であり、民生委員が自分で動く内容でない

- ・見守りの情報共有、個人情報の問題
- ・高齢者名簿作成時に目的を教えてほしい

## 2. 社会福祉協議会支部連絡協議会

(令和6年5月8日実施)

現在の活動で課題となっていること

- ・活動を担う人材・マンパワー
- ・情報・他団体との連携・ネットワーク
- ・活動に必要な情報も個人情報として教えてもらえない

住民と行政の協働に必要なこと

- ・市の施策・事業に関する情報を積極的に公開する
- ・住民が現状で無理なくやれることを考えてほしい

今後連携が必要だと思われる活動分野

- ・まちづくり、行政・区長会

他団体・機関等との連携を進めるうえでの課題や困難なこと

- ・福祉委員活動・支部活動への理解がなかなか得られない。

アウトリーチの実施

- ・個人情報規制が厳しく、地域にどんな人がいるかの情報がつかめない

その他

- ・コミュニティセンター（地域活動の拠点となる場所）が無いことが不便
- ・区長会へ福祉委員選出のお願いに行くが、なかなか理解が得られない。福祉委員不在の地域が出てきたり、区長が兼任などで名前は埋まったものの、活動は平日昼間が多いため実質の活動には参加いただけない地区もある
- ・一人暮らし高齢者訪問を考えても、福祉委員は高齢者に不審がられないお話し上手の女性が良く、支部運営には区長を経験したような男性が良いと思う事もある。そのあたりからも、区長に福祉委員や支部を理解してもらうことが必要と思う
- ・8支部の中には、区長会やまちづくりの組織と一体になった支営運営を出来ている支部もある。そうなっていくと良い
- ・人口が減り、高齢化が進み、子どもも少なくなっている。定年延長の不足もある。今までやっていたことをそのままとか、新しい仕事を増やすのではなく、現状でできることを考えていくしかない

## 3. 瑞浪市ボランティア連絡協議会

(令和6年5月22日実施)

現在の活動で課題となっていること

- ・活動の財源確保
- ・活動を担う人材・マンパワー
- ・構成員の高齢化

住民と行政の協働に必要なこと

- ・市の施策・事業に関する情報を積極的に公開する

・行政も社協も、担当者がボランティア活動等について知らないと感じることがある。要望を伝えてもイメージがついてないために話がかみ合わないことが起こる。協働する相手の活動を見学してもっと知ってほしい。担当者の変更でも引き継いでほしい

今後連携が必要だと思われる活動分野

・民生委員

アウトリーチの実施

・「ひきこもり」の人など、近所の人との会話の中で結構存在していることは感じる。しかし自分たちは詳しくは知らないので、調査などして困っている人の人数など分かったことは知らせて、今どんな活動が必要なのか伝えてほしい。

その他

・ボランティア活動者だけでなく、ボランティア依頼者も高齢化し新たな依頼者が増えていない。依頼が少なくなり、やることがない状況となっている。違う活動への変更も必要といえる

・ボランティア活動対象者の反応が直接見えるとやりがいを感じやすく楽しめるが、見えないグループでは、やりがいを感じにくい。対象者の反応が知りたい。

・ボランティア活動をしていない人は、「ボランティア」という言葉に対して固定観念があるのではないか。「時間がある暇な人」と思われているようにも感じる。「ボランティア」という言葉が強く、「大変そう」と考えて参加を立ち止まる人もいると思う。どのグループも高齢化していて40代50代の人に参加してもらいたい。もっと気軽に参加できる場や仕組み作りが必要でないか。広報では「ボランティア」という言葉を変えて「お互い様」の意識を持ってもらうとか、「楽しさ」や「心の潤い」などを感じてもらえるよう工夫し、敷居を低くすると良いのではないか

・助成金申請の条件に会費を取っていることがあるが、自分のお金を使ってボランティア活動をするというのもハードルが高い

・「育成」や「支援」という言葉も、上から目線のようなイメージを持つ

・計画の冊子や概要版、なるべくわかりやすい言葉を使って見やすくつくってほしい（現在のものは見づらい）

#### 4. 瑞浪市子ども発達支援センターぼけっと親の会（令和6年6月19日実施）

その他

・市内の放課後デイ事業所が少なく、土岐市の事業所を利用したりしている。市外の事業所を使う場合には、遠方等の理由で送迎を断られることがある

・大人になってからの就労先選択肢が少ない

・日中一時支援の事業所ができると良い。いざという時に頼れる事業所が、今よりたくさんあると良い

・市内に相談支援事業所も不足している。大人対象の事業所は無い

・支援学校に通う子の親の方が福祉サービスに関する情報が得やすい。支援学級

に通う子の親は情報を得にくい。就学相談には乗ってもらえるが、利用できる具体的なサービスなどは自分で調べないといけない。放課後等デイサービスなど、事業所がある事は教えてもらっても、利用に関する細かな情報は自分で集めなくてはならない

- ・ぽけっとは1対1で週1回利用できるシステムで、親としては本当にありがたい。利用人数が増えたことで、一人当たりの利用時間が短縮されていることが残念

- ・仕事している親が利用できるサービスの組み合わせなど紹介してほしい

- ・STと直接相談できる機会が欲しい。多治見市では心理士にも個別相談できる

- ・保育所などから病院等専門機関を案内されるが、瑞浪市にはそういった機関が少なく、市外に通っている。また、どこもリハビリは十分に使えないのが現状。

- ・平日にリハビリに送迎してもらえるサービスなどがあると助かる(他市にも現状では無い)

- ・聾学校は、千種か岐阜市に行かなくてはならない。東濃に聴覚障害について支援を受けられる場が欲しいと、同じ立場の親の間で話している